

## かいほつ い せき 6. 開発遺跡

所在地：福井市開発5丁目

調査原因：北陸新幹線建設

県道福井森田丸岡線改良

調査期間：平成27年6月1日～8月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,690 m<sup>2</sup>

時代：縄文・弥生



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 開発遺跡は、九頭竜川左岸の自然堤防上に立地し、開発集落の北側に位置しています。現在、市街地化が進んでいますが、遺跡はかつての水田地帯に広がっています。標高は約8.2mを測ります。平成26年度から継続して調査を進めており、北陸新幹線建設と県道改良の事業計画地を①～④区の調査区に分割して、平成27年度は④区を対象としました。

調査の結果、平成26年度と同様に上層面と下層面が存在し、それぞれ時期が違う遺跡であることが確認できました。その内容は、上層面が縄文時代晩期および弥生時代中期を中心とする集落跡、下層面が縄文時代後期の遺物散布地となります。

**遺構と遺物** 縄文時代後期の遺物が出土する包含層は、④区の全域に堆積しています。上層の遺構が確認できる土層面より約20cm下に堆積し、厚さが約20cmを測ります。遺物には、縄文土器と石器がありますが、量は少なく、全体的にまばらな出土状況となります。

縄文時代晩期の主な遺構には河川があります。河川は、幅約6m、深さ約60cmを測ります。内部からは遺物が多量に出土しました(写真1)。遺物には、縄文土器(写真2)や打製石斧(写真3)などがあります。遺物は、北側斜面にまとまる傾向があります。河川より約200m北方には、平成26年度の調査で、同じ縄文時代晩期の建物が多くみつかった③区が位置しており、③区からこの河川まで移動し、遺物を廃棄した可能性もうかがえます。

弥生時代中期の主な遺構には河川と貯蔵穴があります。河川は前述した縄文時代と同じ河川ですが、弥生時代中期には半分程度埋まっており、やがて完全に埋まったようです。内部からは遺物が多量に出土しました(写真4)。遺物には、弥生土器(写真5)や小型の勾玉(写真6)などがあります。貯蔵穴は10基みつかりました(写真7・8)。河川が埋まる前につくられています。直径が40～90cm、深さが20～40cmを測ります。内部からはクルミが出土し、最少2点、最多183点となります。これらの貯蔵穴は河川跡の水分を利用して外果の腐食などを目的とした一時的な保管場所であると考えます。そのため、出土したクルミは、少量の場合が取り残し、多量の場合が取り忘れ、あるいは不要品として理解できそうです。

**まとめ** 今回の調査区では、住居などの建物跡は明確にはみつかりませんでした。しかし、河川跡をごみ捨て場や食料保管場として利用していることから、居住域に近い場所であると判断でき、集落内での土地利用方法を示すものとして貴重な成果となりました。(山本孝一)



主要遺構配置略図  
(S=1/1,000)  
●：貯藏穴



写真1 河川下層縄文時代遺物出土状況

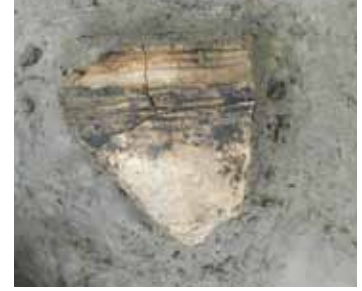


写真2 河川出土縄文土器



写真3 河川出土打製石斧



写真4 河川上層弥生時代遺物出土状況



写真5 河川出土弥生土器



写真6 河川出土勾玉



写真7 貯藏穴クルミ出土状況



写真8 貯藏穴遺物出土状況